

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

光市教育委員会学校教育課

調査の概要

1 目 的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日 令和 8 年 4 月 2 3 日（木）

※中学校英語の実施日

「読むこと」「書くこと」「聞くこと」：令和 8 年 4 月 2 0 日（月）～4 月 2 3 日（木）のうち 1 日
「話すこと」：令和 8 年 4 月 2 4 日（金）～5 月 2 9 日（金）のうち 1 日

3 調査対象 光市立小学校第 6 学年児童（8 校） 光市立中学校第 3 学年生徒（5 校）

4 調査内容 (1) 教科に関する調査（小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語） ①と②を一体的に出題。

※中学校英語は、MEXCBTによるオンライン方式で実施

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

(2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を実施。

・達成感、規範意識、自己有用感等

・ICT を活用した学習状況

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

教科に関する調査結果

1 結果と分析

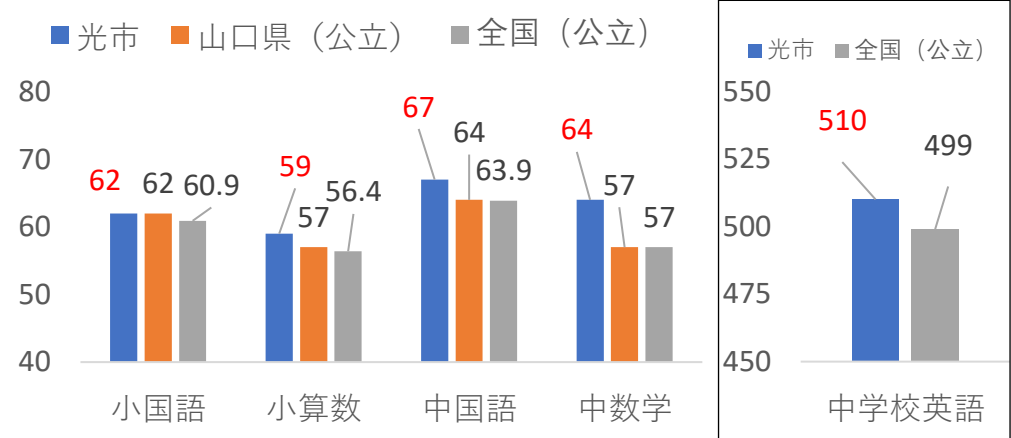
(1) 本年度の結果（平均正答率（％）、平均 I R T スコア）

※国語、算数・数学については、都道府県・市町村における平均正答率は整数値で提供。

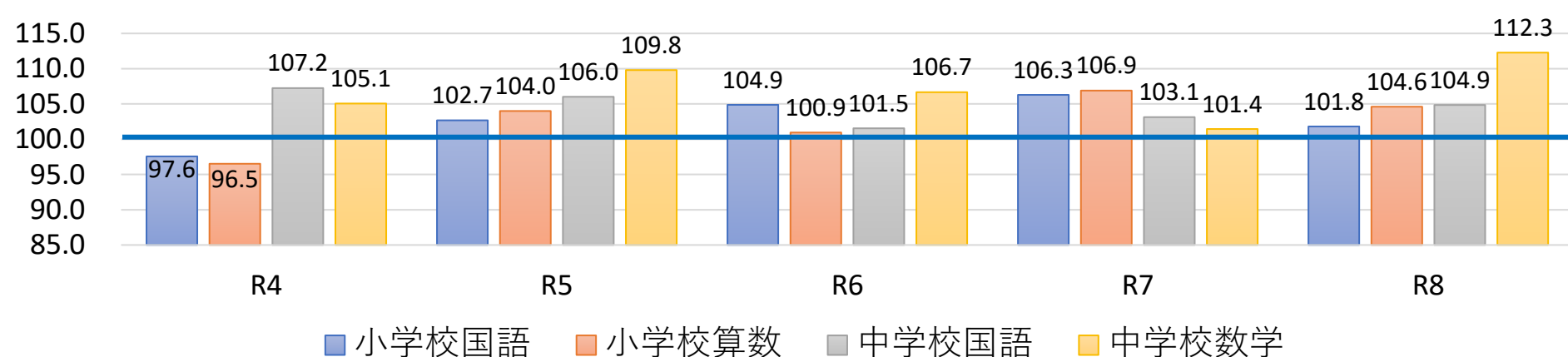
英語（IRT）については、都道府県は10をまとまりとした区分で記載。

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
光市	62	59	67	64	510※
山口県（公立）	62	57	64	57	495～504※
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499※

※平均 I R T スコアを記載

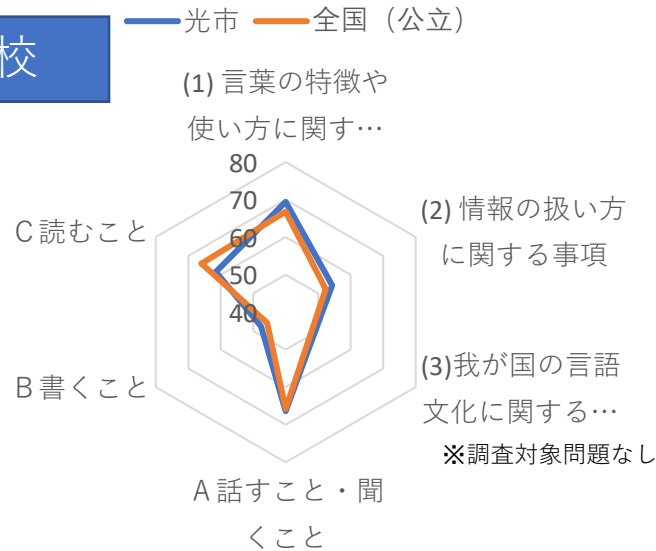


(2) 平均正答率の推移（令和4年～令和8年度の5ヶ年を通して）※全国平均を100とし、数値の差を表したもの。



領域別結果（国語）

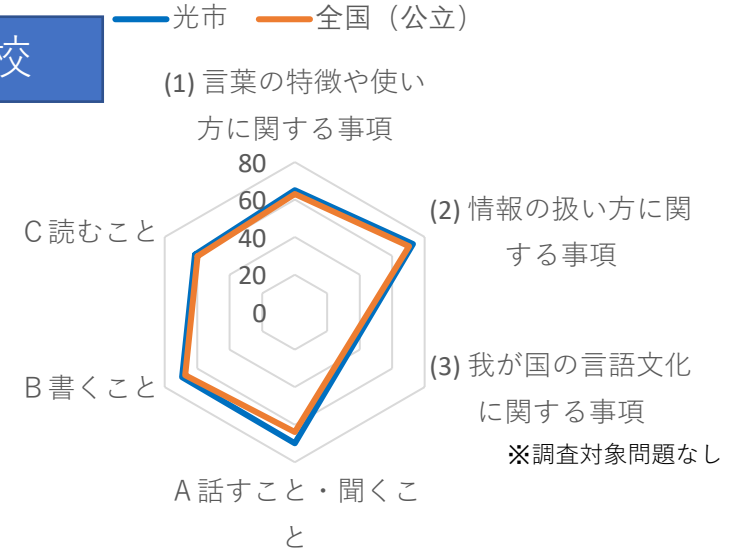
小学校



		平均正答率 (%)			全国平均との差
		光市	山口県（公立）	全国（公立）	
全体		62	62	60.9	1.1
知識	(1) 言葉の特徴や使い方に…	69.4	69.9	66.8	2.6
および	(2) 情報の扱い方に関する事項	54.3	52.8	52.3	2.0
技能	(3) 我が国の言語文化に関する事項				
思考力	A 話すこと・聞くこと	66.4	67.5	65.8	0.6
判断力	B 書くこと	47.6	46.6	45.7	1.9
表現力	C 読むこと	61.5	63.9	65.9	-4.4

○ 漢字を正しく書くことや情報と情報の関連付け、図などによる表し方の理解など、知識および技能の確実な定着が見られる。一方、思考力・判断力・表現力の読むことにおいては、目的に応じて必要な情報を見付けること、特に複数テキストの内容を関連付けながら読むことに課題が見られる。日々の授業において様々なテキストや情報を基にした話し合い、条件作文などの短時間学習、「振り返り」の充実、読書活動の推進等、今後も組織的・継続的に展開していく必要がある。

中学校

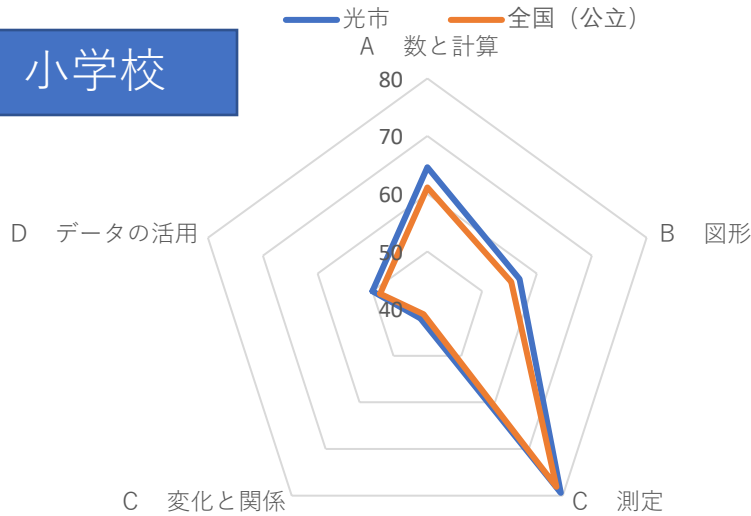


		平均正答率 (%)			全国平均との差
		光市	山口県（公立）	全国（公立）	
全体		67	64	63.9	3.1
知識	(1) 言葉の特徴や使い方に…	65.0	63.3	63.0	2.0
および	(2) 情報の扱い方に関する事項	72.8	70.3	70.4	2.4
技能	(3) 我が国の言語文化に関する事項				
思考力	A 話すこと・聞くこと	69.9	65.2	63.9	6.0
判断力	B 書くこと	69.3	67.3	67.4	1.9
表現力	C 読むこと	61.4	58.1	59.7	1.7

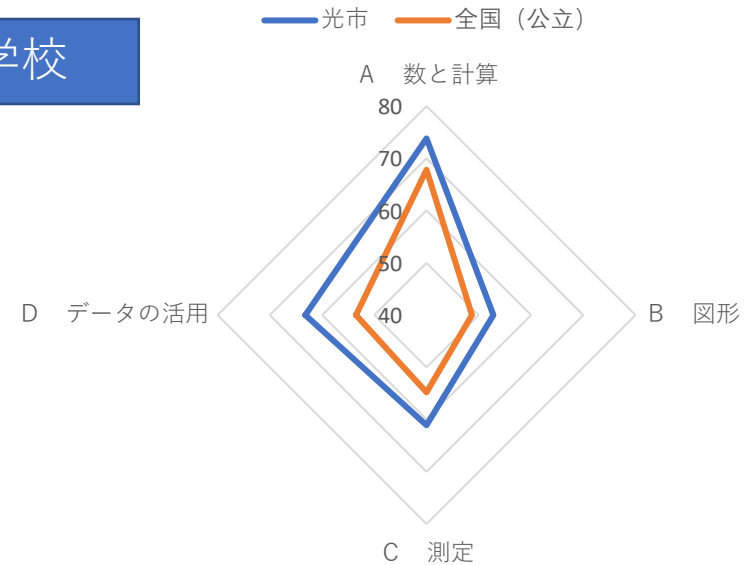
○ 国語科全体において高い成果が表れている。特に、思考力・判断力・表現力の話すこと・聞くことにおいては、話し合いの目的や場面に応じ、伝え合う内容を検討したり、発言の意図を捉えたり、結論を導くために考えをまとめたりする力の向上が表れている。国語のみならず、様々な授業において、生徒が目的や必要感をもって話し合う経験を積んでいる成果が表れていると言える。

領域別結果（算数・数学）

小学校



中学校



	平均正答率 (%)			全国平均との差
	光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体	59	57	56.4	2.6
A 数と計算	64.4	62.1	61.1	3.3
B 図形	56.8	55.3	55.3	1.5
C 測定	79.4	76.8	78.1	1.3
C 変化と関係	42.0	40.6	41.1	0.9
D データの活用	50.0	49.2	48.6	1.4

	平均正答率 (%)			全国平均との差
	光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体	64	57	57.0	7.0
A 数と式	73.8	68.0	67.8	6.0
B 図形	52.8	46.5	48.7	4.1
C 関数	61.1	55.6	54.8	6.3
D データの活用	63.2	53.8	53.5	9.7

○算数科において、すべての領域で全国平均を上回るなど、学力の確実な定着が見られる。特に数と計算領域では、概数で表すことや異分母分数の大小比較、小数の計算等に大きな成果が見られるとともに、割合的思考も養われており、数学的な見方・考え方を働かせた質の高い学習が展開されていることが表れている。日々の授業や短時間学習、家庭学習が効果的かつ、組織的に展開されている成果が表れていると考えられる。

○数学科において、すべての領域で全国平均を大きく上回り、高い学力が身についている。特に「データの活用」領域においては、累積度数、箱ひげ図と四分位数の対応、データの傾向を捉えて説明することなど、データ分析力の高さが表れている。「関数」領域においても説明の力が伸びていることから、基礎基本の力とともに高い応用力が定着していると言える。今後も授業を充実させるとともに、生徒の学びに関する主体的活動を後押ししながら、組織的な取組を継続していく。

領域別結果（英語）

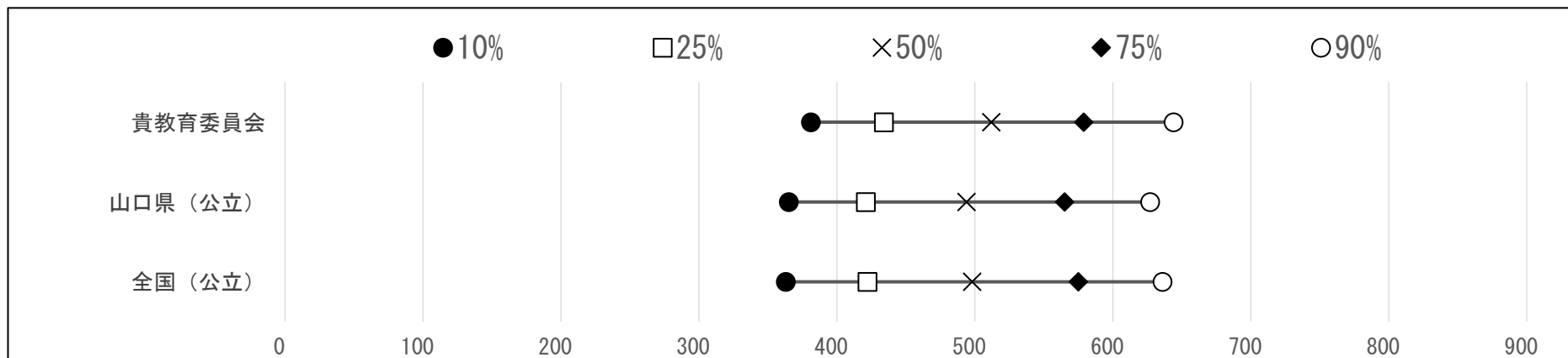
中学校

※中学校英語については、IRT（Item Response Theory：項目反応理論）でテストが実施（生徒ごとに異なる問題で構成）されており、領域別結果については、光市全体での結果が算出できないため、記載しておりません。

	平均IRT スコア	パーセンタイル値				
		10%	25%	50%	75%	90%
光市	510	381	434	512	579	644
山口県 （公立）	495～504	365	421	494	565	627
全国 （公立）	499	363	422	498	575	636

パーセンタイル値：

計測値の統計的分布の上で、小さい方から数えて何％目の値は、どれくらいかという見方をする統計的表示法のこと。数値が高いほどその層の学力水準が高いことを示す。



○平均IRTスコアが全国・県を上回っており、高い英語力が身に付いている。すべてのパーセンタイル値においてIRTスコアが全国・県を上回っていることは、下位層から上位層にいたるまですべての層に確かな学力が定着していることを示している。この背景には、「英語の勉強が好き」「英語の授業はよく分かる」と回答する生徒の多いことが挙げられ、英語の授業が楽しくて分かりやすい、力がつくものとして受け止められていることがうかがえる。こうした生徒の意識や授業の充実、教師による丁寧な指導（インプット）と、生徒同士の交流や表現（アウトプット）をバランスよく取り入れた授業の積み重ねによるものであり、それが確かな学力の定着につながっていると推察される。今後は、ペア・グループトークやヒアリングテスト等の日常的な言語活動に加え、表現の場をさらに広げ、日々の授業との往還を意識した指導を展開することで、生徒一人ひとりの「もっと伝えたい」という思いを叶え、全体の学力を一層高めていきたい。

児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

将来の夢や目標を持っていますか

小学校



中学校



自分にはよいところがあると思いますか

小学校



中学校



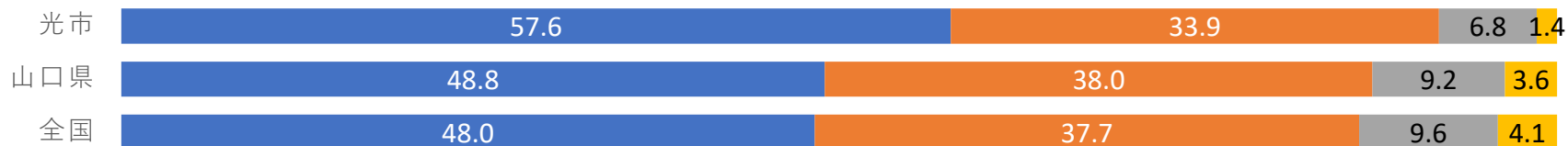
児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

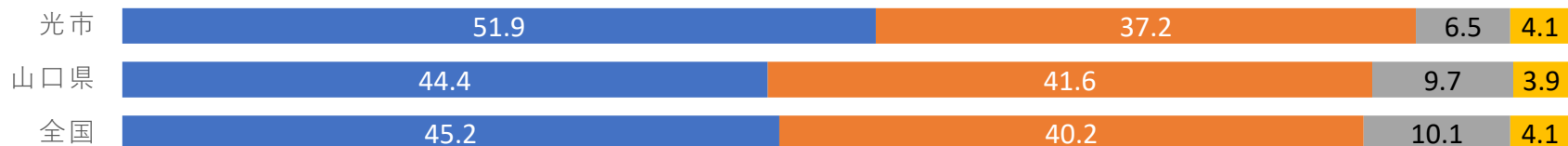
■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校



中学校



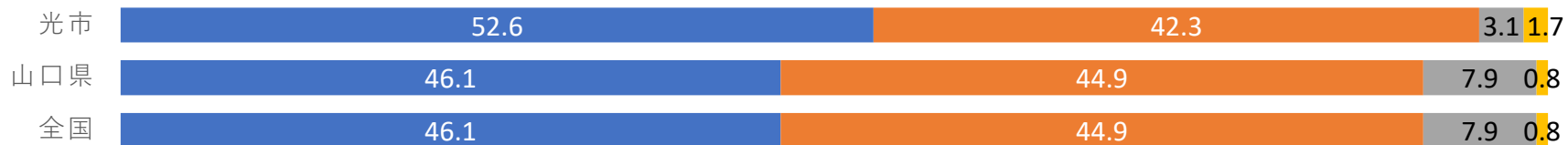
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

■よくある ■ときどきある ■あまりない ■全くない

小学校



中学校



児童生徒質問紙の結果

「将来への夢や目標をもっている」や「自分にはよいところがある」、「学校に行くのは楽しい」という質問において、肯定的な回答の割合が全国を上回る良好な傾向が継続している。さらに、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」という質問に対しても、肯定的回答をした割合が全国を上回っており、児童生徒の中に豊かな幸福感が育まれていることがうかがえる。コミュニティ・スクールを基盤とした多様な教育活動を通じ、地域の人々をはじめとする多くの他者から自身のよさを具体的に認められる機会が豊富にあることが、自己肯定感や自己有用感の向上を促し、ウェルビーイング（豊かな幸福感）の醸成を支えていると考えられる。

児童生徒質問紙の結果

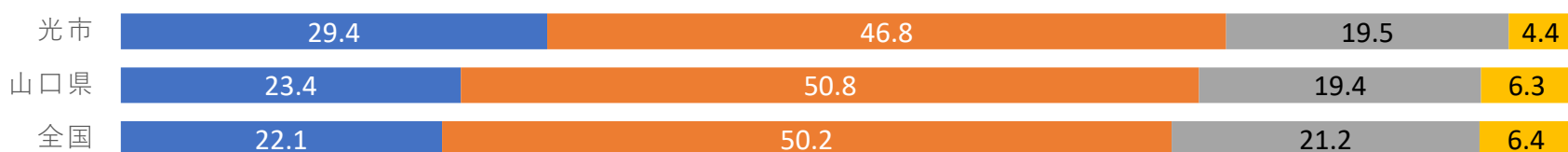
②地域との関わりに関する質問 ■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

小学校



中学校



人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校



中学校



児童生徒質問紙の結果

「地域や社会をよりよくするために何かしてみたい」や「人の役に立つ人間になりたい」という質問において、小・中学校ともに肯定的な回答、特に「当てはまる」と強く回答した割合が全国を大きく上回る良好な結果を示している。コミュニティ・スクールを基盤とした地域の大人との多様なかかわり（授業、体験活動、放課後、地域クラブ活動等）が日常化していることで、児童生徒が地域社会を身近に感じ、愛着や信頼感を抱いている成果と考えられる。こうした地域とともにある教育活動が、「自分も誰かの役に立ちたい」という高い貢献意識や、小学生段階からの主体的な社会参画意欲の向上につながっている。今後も、地域と学校の協働体制を一層深め、「社会に開かれた教育課程」のさらなる充実を図りながら、主体的に社会へ参画する意識や態度の醸成に努めていく。

児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校



中学校



学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

小学校



中学校



児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

小学校



中学校



先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

小学校



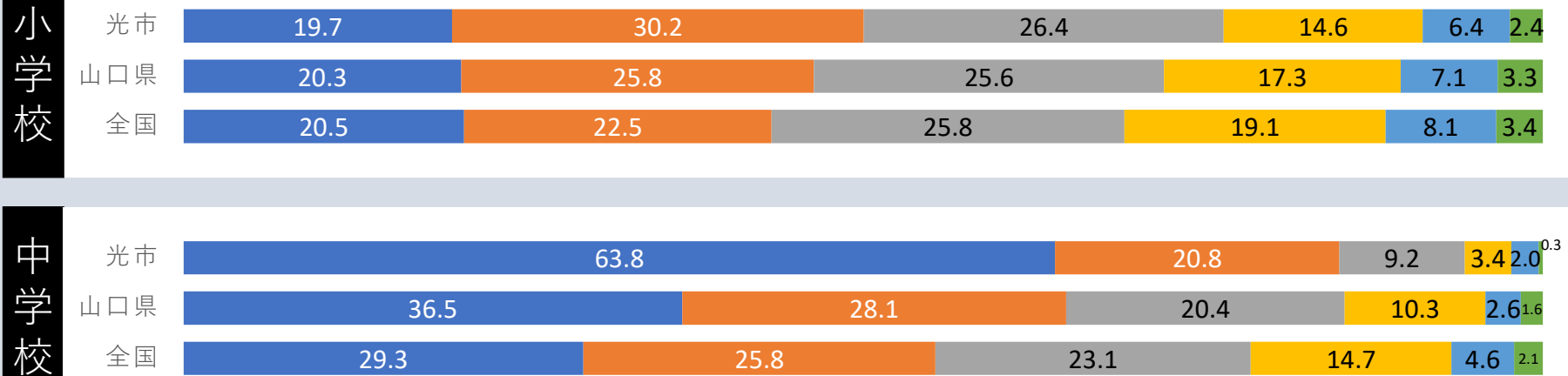
中学校



児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問 ■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用） ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



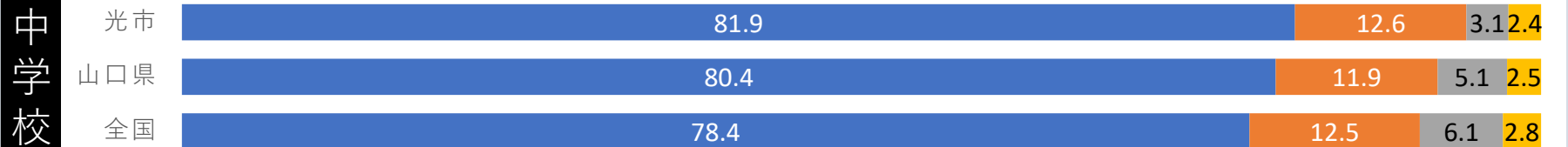
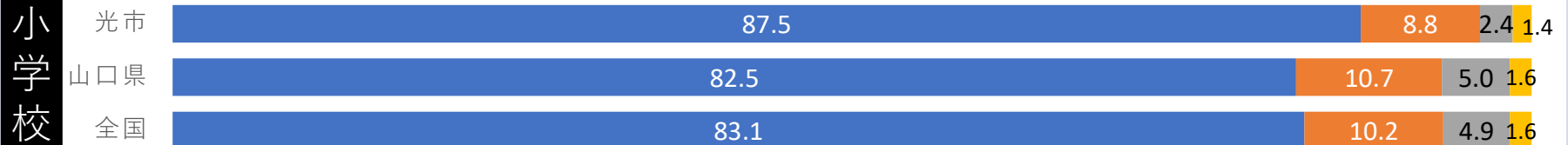
「自分に合った教え方や教材」や「先生が分かるまで教えてくれる」という個別最適な学びに関する質問については、小・中学校ともに全国平均を上回る良好な傾向を示している。また、中学生のICT機器の使用頻度も極めて高い数値となっている。一方で、「課題解決に向けて自分で考えて取り組む姿勢」や「見直した内容を次の学習につなげる力」については、中学校において課題が見られ、生徒が自ら学びを調整するプロセスの一層の工夫、改善が必要である。今後も、授業における探究的な学びの実現や、タブレット端末を含む多様な教具の効果的・日常的な活用を促進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、一体的に推進していく。

児童生徒質問紙の結果

④家庭での生活習慣・学習習慣に関する質問

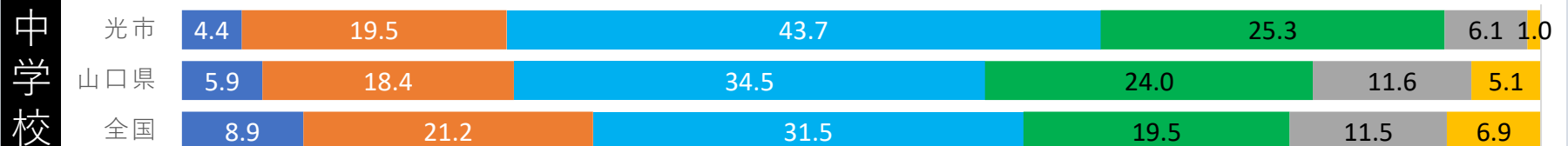
朝食を毎日食べていますか

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない



平日一日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか（学習塾・家庭教師・インターネットを活用した勉強時間を含む）

■3時間以上 ■2～3時間 ■1～2時間 ■30分～1時間 ■30分以下 ■全くしない

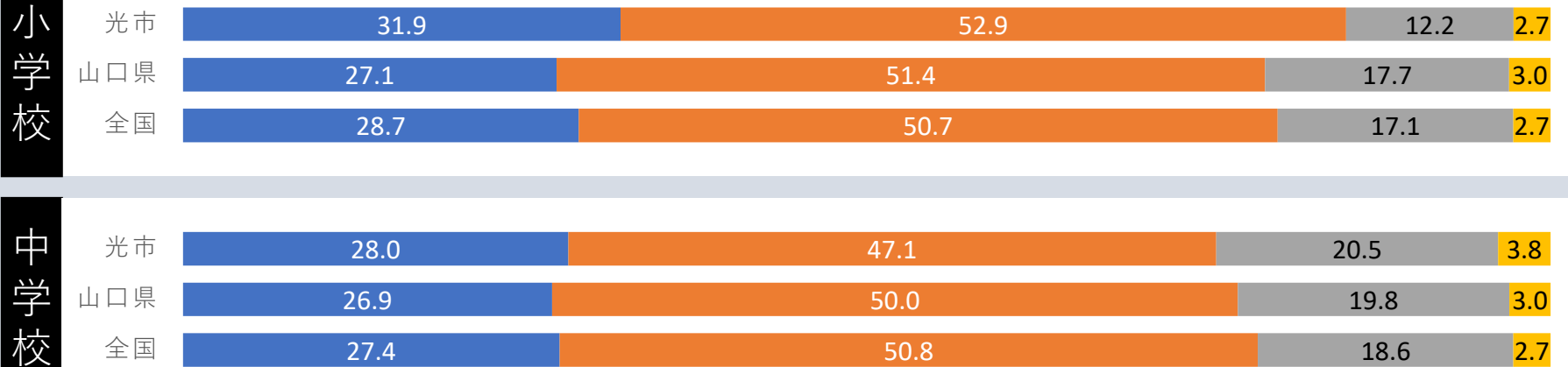


児童生徒質問紙の結果

④家庭での生活習慣・学習習慣に関する質問

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない



「朝食を毎日食べていますか」という質問への肯定的回答は全国平均と同程度から若干高いものの、一定数が朝食を食べていない状況が見られる。家庭学習については、長時間学習する割合は低いものの、1～2時間や30分～1時間など、毎日の少しずつの積み上げができている割合が高く、家庭学習の習慣はある程度定着していると考えられる。一方で、「分からないことや詳しく知りたいときに、自分で学び方を考え、工夫している」という質問に対しては、小学校が高い割合を示しているのに対し、中学校は低い割合に留まっており、中学校段階において自ら学びを工夫する主体的な学習態度に課題が見られる。今後は、学校での授業と家庭学習との学びのサイクルを一層意識するとともに、授業と放課後の学びや子どもの学習に関する主体的活動をつなげていくことで、自己調整力を育むことができるように努めていく。あわせて、食育指導の充実などを通じて、規則正しい生活習慣の確立を一体的に推進していく。